

安全の手引き

令和 3 年 6 月
在ポートランド領事事務所

1 防犯の基本的な心構え

(1) 治安概要

オレゴン州の2019年の人口は約421万7千人です。そのうち、オレゴン州最大の都市ポートランド市の人口は約65.4万人です。オレゴン州では2019年1年間で11,995件の暴力犯罪及び115,170件の財産犯罪が発生しています。

オレゴン州は、全米の中では比較的治安が良いと言われていますが、昨年夏以降、拳銃を使用した事件が多発しており、ポートランド市警察の発表によれば、拳銃発砲事件の通報件数が前年に比べ大幅に増加するなど注意が必要です。また、昨年5月以降、BLM運動等人種差別に対する抗議や警察、州政府に対する不満等を背景にポートランド市ダウンタウンを中心に抗議活動が活発に行われています。抗議活動が終了後に一部参加者が暴徒化し、放火や器物破損等の行為に及ぶ事案もたびたび発生していますので、不測の事態に巻き込まれないよう、抗議活動や集会等、人が集まっている場所を見かけた場合は決して興味本位で近づかず、その場から速やかに離れる等の注意が必要です。

近年ポートランド市をはじめとするオレゴン州は日本経済との結びつきも強く、多くの日系企業が進出しています。また、オレゴン州立大学やポートランド州立大学等当地主要大学への留学や日本や全米各地からの観光客も年々増加しています。

当地に滞在中の方々や当地を訪れる方々が犯罪に遭う確率をできるだけ低くし、また、犯罪等に巻き込まれてしまった場合の被害を最小限にするためにどうすべきか、日頃から「いざという時」の心構えを準備しておくことが重要です。当地で安全、快適な生活を送られる上で、この手引きを参考にして頂ければ幸いです。

(2) 情報の入手

犯罪の被害に遭わないためには、十分な情報の入手が必要です。新聞やテレビ、ラジオ、インターネットなどを通じ、どのような場所でどのような犯罪が発生しているのかといった情報に日頃から注意し、また、初めて出かける場所については、事前に十分な情報を収集してから出かけるよう心掛けてください。

ポートランド市内の犯罪に関する情報は

Crime Mapper (www.portlandoregon.gov/police/71673)

というウェブサイトから入手できます。

当事務所のウェブサイト

(https://www.portland.us.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

にオレゴン州等の治安に関する情報や山火事の発生等自然災害に関する情報、新型コロナウイルス感染症関連情報等を随時掲載しています。

また、外務省の海外安全ホームページ (<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)

では世界各地のテロ、治安等の安全に関する情報や災害、感染症等の様々な情報を発信していますので、参考にしてください。

(3) 犯罪の標的にならない

ひとたび犯罪者に狙われたら、その被害から逃れることはきわめて困難です。犯罪者の標的にならないようにする注意が必要です。日頃から多額の現金を持ち歩いたり、華美な服装で外出するといった行動を避け、なるべく地域にとけ込むように努めてください。また、近隣住民と良好な関係を築くことも防犯の重要なポイントです。

(4) 日頃からの準備

さまざまな防犯対策をとっていても、犯罪の被害に遭ったり交通事故や急病、けが等不測の事態が発生することはあります。そのような場合に自分がどうするのか、緊急の連絡先は準備できているか、必要な書類はすぐに取り出せるか、病気・事故などに備え十分な保証のある海外傷害保険等に参加しているかなど、この機会に是非ご確認ください。

2 最近の犯罪発生状況

(1) オレゴン州全体の犯罪発生状況は、表1のとおりです。2019年の暴力犯罪は対前年比で約0.2%増加し、特に、殺人が41.5%増加しています。財産犯罪については約5.0%減少、全体の犯罪発生件数は約4.6%減少しました。

表1：オレゴン州犯罪発生件数

		2018年	2019年	増減	増減率
暴力犯罪	殺人	82	116	34	41.5%
	強姦	1975	1778	-197	-10.0%
	強盗	2549	2276	-273	-10.7%
	加重暴行	7360	7825	465	6.3%
	小計	11966	11995	29	0.2%
財産犯罪	侵入盗	16304	14724	-1580	-9.7%
	窃盗	88418	85261	-3157	-3.6%
	自動車盗	16556	15185	-1371	-8.3%
	小計	121278	115170	-6108	-5.0%
合計		133244	127165	-6079	-4.6%

(出典：FBI Uniform Crime Reports)

(2) オレゴン州内で日本人の多く住んでいるポートランド市の犯罪発生状況は、表2のとおりです。2019年は前年に比し殺人を含む暴力犯罪の増加が見られましたが、逆に侵入窃盗等の財産犯罪が減少し、全体の犯罪発生件数では約1.1%の減少となっています。

表 2 : ポートランド市犯罪発生件数

		2018	2019	増減	増減率
暴力犯罪	殺人	26	35	9	34.6%
	強盗	1075	995	-80	-7.4%
	性犯罪	696	696	0	0.0%
	暴行傷害	8726	9104	378	4.3%
	小計	10523	10830	307	2.9%
財産犯罪	侵入窃盗	4337	4190	-147	-3.4%
	窃盗	24783	24587	-196	-0.8%
	自動車盗	7010	6555	-455	-6.5%
	放火	281	258	-23	-8.2%
	小計	36411	35590	-821	-2.3%
合計		46934	46420	-514	-1.1%

(出典 : Crime Statistics by Portland Police Bureau)

3 防犯のための注意事項

(1) 犯罪別の防犯対策

ア 殺人、強盗などの凶悪犯罪

近年、殺人や強盗、暴行傷害等の凶悪犯罪が増加傾向にあります。殺人事件や強盗などの凶悪犯罪は、夜間、人気のないところで多く発生していましたが、最近では住宅地等でも発生していますので注意が必要です。また、ポートランド市内では引き続きギャング同士の抗争と見られる事件も発生しています。特に、殺人事件は、犯人と被害者の因果関係が全くない場当たり的な犯行もおきており、また、殺人、強盗等の凶悪犯罪の多くに銃器が使用されています。このような犯罪に遭わないためには、以下の犯罪統計を参考に、犯罪率の高い地域を通る際には十分警戒する、夜間の一人歩きは避ける、人気のない場所や不審な人物には近づかない等安全の確保にご留意ください。

ポートランド市警察公表の月間犯罪統計

<https://www.portlandoregon.gov/police/71978>

イ 性犯罪

ポートランド市内では2019年に696件の性犯罪事件が発生しています。これらの事件は被害者の年齢に関係なく発生しており、女性が単独で外出する際には安全な道順を確認し、人気のない場所には近づかないよう注意してください。

ウ 住居侵入・窃盗

住居侵入や窃盗などの犯罪が多発しています。当事務所にも邦人宅への空き巣被害の報告が寄せられています。以下の対策を参考に被害にあわないよう十分な防犯対策を講じてください。

また、犯人は犯行を行う前に下見をし、家人の外出傾向をチェックすることが多いようです。自宅付近で不審な人物を見かけたら、警察に通報しましょう。

【対策】

- ① 自宅のドア、窓にはしっかりした錠をつけ、短時間の外出であっても錠をかけることを習慣づける。
- ② 鍵の管理をしっかり行い、万が一紛失した場合には速やかに交換する。
- ③ 家の鍵を植木鉢や玄関マットの下に置いたりしない。
- ④ 玄関や前庭等には十分な照明施設を付ける。
- ⑤ 夜間の外出時には室内の明かりを付けておく等留守であることを悟られないよう工夫する。
- ⑥ 長期間留守にする際は、信用のおける近隣の人に注意を払ってもらうようお願いする。
- ⑦ 在宅中に異変を感じた場合は、在室している部屋を出ることにより、犯人と鉢合わせしたり、犯人の逃げ道を塞ぐ結果になり危害を受ける可能性が高くなるので、直ちに部屋を出るようなことはせず、警察やマンションの受付に連絡するなど慎重に行動する。
- ⑧ 外出から帰宅した際、自宅家屋の周囲やドアを確認し、何者かの侵入の形跡が認められたら、不用意に中に入ることなく、警察に通報する。

エ スリ・置き引き

スリ・置き引きの被害には旅行者だけでなく、当地にお住まいの方も被害に遭っています。特に日本人は常時現金を携帯していると思われるしており、標的になることが多いようです。せっかくの旅行、滞在を楽しく、安全なものとするため、以下の対策を参考にスリや置き引きの被害に遭わないよう十分注意してください。

【対策】

- ① 外出時には、多額の現金、貴重品を持ち歩かない。
- ② やむを得ず貴重品を携帯する際には、分散して携帯する。
- ③ 外出時には周囲の人の動きに常に注意する。
- ④ レストラン等であっても椅子の背もたれ等にバックはかけず、常に荷物から目を離さない。
- ⑤ 夜間の一人歩きや昼間であっても人通りの少ない場所、路地は避ける。
- ⑥ 不用意に人前で財布は見せない。
- ⑦ 旅券を所持する場合は、体から離さず、常に身につけるようにする。
- ⑧ 路上で携帯電話端末を操作しながら歩くことは避ける。

オ 車上ねらい

当地で生活する上で車は欠かせないものですが、駐車中の車から金品、クレジットカード、パソコン等の電子機器や旅券等が盗難に遭うといったいわゆる車上荒らし被害が多発しています。毎年、日本人の被害も複数件報告されており、このような被害に遭わないために、次のような注

意が必要です。

- ① 短時間であっても、駐車した車から離れる場合は必ず鍵をかける。
- ② 車内には荷物（特に貴重品）を残さない。やむを得ず車内に荷物を残す場合にはトランクの中等見えない場所に保管する。また、携帯型カーナビを取り付けたままの状態では車を離れることは避ける。
- ③ 路上駐車する場合は、人通りの多い場所を選ぶ。特に夜間の駐車は照明のある明るい場所を選定する。可能であれば、路上駐車は避け、係員がいる駐車場に駐車する。
- ④ 車を複数台所有し自宅の車庫前に駐車する際は、車内にガレージ・オープナーを置いたままにしないよう注意する。車上ねらい犯がガレージから自宅に入り空き巣を働く事例も報告されています。

（２）日常生活における注意点

ア 住居

住居を選ぶ際の最大のポイントは、居住する場所がどのような地域かという点です。時間帯や曜日によって周囲の様子が大きく変化する地域もありますので、住居を決定する前に異なった時間帯に何度かチェックすることをお勧めします。また、居住しようとする地域の犯罪発生傾向や件数なども十分に調べておく必要があります。

入居後は、普段から防犯設備の保守・点検に努め、不良箇所は速やかに補修しておきましょう。これらの設備に不備があると空き巣などに狙われる原因になります。不審者の早期発見や旅行などで長期間不在となる際の防犯のためにも近隣の住民と良好な関係を築くことをお勧めします。

イ 生活上の注意点

自分の名前、住所、電話番号などは不用意に他人に教えるべきではありません。

また、旅行など長期間不在となるような計画はごく親しい者だけに知らせ、他人にはなるべく知られないようにしましょう。

防犯上の最大のポイントは、犯罪者に狙われないことです。日頃からスキをつくらず、地元の人たちにとけ込んで、目立たないようにすることで、犯罪に遭う確率を少しでも減らすことを心掛けましょう。

4 交通事情と事故対策

（１）自動車の運転にあたっては、当地の交通法規を十分に理解し、遵守することはいうまでもありません。また、スピードの出し過ぎや飲酒運転をしないなど、当たり前のことですが、ちょっとした気の緩みが大きな事故に繋がります。当地で車を運転する際には、特に次の３点に注意してください。

- 雨や風、霧など天候によって視界が制限されたり、車がスリップしやすくなったり、また、特に冬場は路面が凍結することがあるので、十分に注意する。
- 目的地までの道順を前もって調べておく。
- 運転中に携帯電話の操作はオレゴン州法で禁止されています。やむを得ず操作す

る場合には必ず路肩等に車を停車してから操作を行うようにする。

(2) どんなに安全運転をしていても交通事故に巻き込まれてしまう可能性はあります。

オレゴン州陸運局(DMV)の発行する「Oregon Drivers Manual」では、事故に遭った場合の措置を次のとおり案内しています(詳細については「Oregon Drivers Manual」をご覧ください。同マニュアルはDMVで無料配布しています。)

- 事故現場で直ちに停止する。ただし、他の交通の障害となる場合には、最小限の移動は許される。
- 相手方と氏名、住所、車の登録番号、自動車保険に関する情報等を交換する。
- 求められる場合には、運転免許証を提示する。
- けが人がいる場合には、適切な医療保護(救急車: 911)の要請をする。
- 人身事故又は2,500ドル以上の物損事故の場合には、警察への届出とは別に72時間以内にDMVに報告する。

(3) その他参考

警察官に車両の停止を求められた場合

- 速やかに安全を確認して停止し、警察官の指示に従う。
- ウィンドウを下げて、両手をハンドルの上に出しておく。
- 警察官に免許証等を見せるため、ポケットやダッシュボードに手をかけない。
- 免許証を取り出す場合も警察官の指示に従って行う。
- 銃社会であるので、ポケットに手を入れたり、ダッシュボードを開けようとするだけで、撃たれる可能性があるため、警察官の指示があるまで両手を見える位置に出しておく。

5 大規模災害・テロ対策

大規模な災害やテロはいつどこで発生するか予測することは困難です。米国内では、過去にカリフォルニア州サンバーナーディーノにおける銃撃テロ事件、フロリダ州における銃撃テロ事件、ニューヨーク市マンハッタンにおける車両突入テロ事件等が発生しており、同テロにより死傷者が出ています。過去(2010年)にはポートランドにおいてもFBIの捜査により市内中心部におけるクリスマスツリー点灯式典を狙った大量爆発物使用未遂事件で犯人が逮捕される事案も発生しています。また、当地では火山の噴火(1980年セント・ヘレンズ山の大噴火)や地震などが発生する可能性も排除できません。近年は夏場の気温の上昇に伴い、オレゴン州内において複数の大規模な山火事が発生し、山火事周辺地域に非常事態宣言が発出される事案も散見されます。これらの突発的な大規模災害やテロなどが発生した際、被害を最小限に食い止めるためにも、以下の事項を参考に日頃から対策を検討し、準備をしておくことが大切です。

(1) 日頃の心構え

ア 連絡体制

- 緊急事態に備え、あらかじめ家族や会社の同僚との間で緊急の際の連絡方法や避難場所を確認しておきましょう。
- 当事務所に必ず「在留届」を提出しましょう。

在留届は各種領事手続きに利用されるだけでなく、緊急時には安否確認を行うためのデータとして在外公館では活用しています。旅券法では、海外に3ヶ月以上滞在する場合は大使館・総領事館・領事事務所へ「在留届」を提出することが義務付けられていますので、家族のためにも外務省ホームページ「ORR ネット (<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)」もしくは直接在外公館にお越しいただき、在留届を提出してください。

なお、帰国、転居、家族構成の変更が発生した際には、内容の変更についても忘れずに在外公館にご連絡ください。

○ たびレジにご登録ください。

「たびレジ」とは、海外旅行や海外出張される方が、旅行日程、滞在先、連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、緊急時の電話連絡などが受け取れるシステムです。該当する方は是非ご登録ください。 (<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

○ テロなどに備え、常に周囲の状況に注意を払って情報を収集し、危険な場所には近づかないよう心掛けましょう。また、万一の場合に備え、自宅付近での緊急時の避難場所を決めておきましょう。

(2) 緊急事態が発生したら

ア 緊急事態が発生したら、領事事務所は皆様の保護に万全を期するため、情報収集、情勢判断及び対策を策定し、在留届等を基に皆様に連絡します。

イ 緊急事態が発生したら、テレビやラジオ、インターネットなどを通じ情報収集を各自心掛けてください。

ウ 領事事務所への通報

緊急事態の発生や現場周辺の情報など、必要と思われるものは領事事務所に通報してください。他の日本人の方々に貴重な情報となります。

また、日本人の方が被害に遭ったり、あるいは被害に遭うおそれがある場合に、当地の関係機関に連絡するとともに、当事務所にも連絡してください。

エ 大規模災害等が発生した際には、まず自宅又は勤務先で待機し、情勢を見守ることになりますが、緊急避難先に避難することとなった場合には、その旨を当事務所宛に通報してください。領事事務所では、避難先への情報の提供、必要な支援等を行います。

6 緊急連絡先

(1) 警察

Emergency : 9 1 1

ポートランド市警 : 5 0 3 - 8 2 3 - 3 3 3 3

Crime Mapper : www.portlandoregon.gov/police/71673

グレシャム市警 : 5 0 3 - 6 1 8 - 2 3 1 8

ビーバートン市警 : 5 0 3 - 6 2 9 - 0 1 1 1

タイガード市警・トゥアラティン市警共通 : 5 0 3 - 6 2 9 - 0 1 1 1

レイクオズエゴ市警 : 5 0 3 - 6 3 5 - 0 2 3 8

セーラム市警：503-588-6123

ユージーン市警：541-682-5111

(2) 市役所

ポートランド市役所：503-823-4000

Crime Prevention Program：503-823-4064

City Web：<http://www.portlandoregon.gov/>

グレシャム市役所：503-618-3000

タイガード市役所：503-639-4171

ビーバートン市役所：503-526-2222

ヒルズボロ市役所：503-681-6100

レイクオズエゴ市役所：503-635-0257

セーラム市役所：503-588-6255

ユージーン市役所：541-682-5010

(3) 在ポートランド領事事務所

代表：503-221-1811

FAX：503-224-8934

ホームページ：<http://www.portland.us.emb-japan.go.jp/>

※ 執務時間外や休祭日における緊急時の対応として、上記の代表電話から、日本語によるオペレーターが24時間対応しています。

(4) 近隣在外公館

在シアトル総領事館

代表：206-682-9107

FAX：206-624-9097

ホームページ：http://www.seattle.us.emb-japan.go.jp/japanese/index_j.htm